



洞爺湖町の高台、成香地区にある「活き活きファーム幸来（さっくる）村」。羊蹄山が一望できて、のどかな風景が広がる場所に、木村眞

娘の水葉さんは、教員をされていました。心の病気を患い、2008年に仕事を辞めUターン。療養のために畑やレス

ランに、現在の場所に畑とレストランを構えました。畑もやっているため、レストランを不在にすることもあり、2001年には完全予約制にしまし

た。築の際にはストローベイル（稲ワラのブロック）ハウスをワークショップ形式で建設。昨年4月には食事付コンサートを開催するなど、様々な文化活動も行っています。

「今後は食事付の観光ツアーや土と触れ合えるイベントを開催したい」と夢は広がります。店名の由来となった「笑う門には福（幸）が来る」の言葉どおり、素晴らしい風景と木村さん親子の笑顔に癒やされるレストランです。（安嶋）

地域おこし協力隊 出会った素敵な人紹介

さっくる 農家レストラン幸来を経営

木村 眞理子さん・水葉さん（成香）

理子さんと水葉さん親子が、完全予約制のレストランを営んでいます。メニューはおまかせコースのみで、ご主人の政信さんらと多彩な無農薬の野菜を育て、旬の素材を活かした料理が評判です。

札幌出身の眞理子さんは、千葉県で仕事をしていました。が「自然の中ののびのびと子育てがしたい」と息子さんの小学校入学を機に、家族一緒に北海道へ帰省。大原で7年間過ごし、新規農業者の資格を取得後の2000年の5月に、現在の場所に畑とレストランを構えました。

2012年のレストラン増築の際にはストローベイル（稲ワラのブロック）ハウスをワークショップ形式で建設。昨年4月には食事付コンサートを開催するなど、様々な文化活動も行っています。

「成香の環境とお客さんとの交流のおかげで元気になり、自分のやりたいことも見つけ、この仕事をしたいと決めたんです」と目を輝かせて話す水葉さん。2015年1月には眞理子さんが10年以上も担当していた北海道新聞のコラム「旬の味」をバトンタッチ。素材を熟知した丁寧な説明が大好評です。

東奔西走

洞爺湖町が誕生して10年を迎えました。井上陽水の唄にもあった「10年一昔」と言う言葉を思い出しました。

この10年を振り返ると、社会の動きの速さを実感します。

「洞爺湖町の魅力に更に磨きをかける一方、課題を克服していく」ことは、簡単なことではありませんが、挑戦していく以外に道はないようです。広報もこの1年、町民皆さんの声を聞きながら、いろんなことにチャレンジしていきたいと思います。（H.O）

人口と世帯の動き 2月29日現在（先月比）

男	4,309	(△10)
女	5,007	(△12)
計	9,316	(△22)
世帯	4,994	(△14)

今月のワンショット

ジオの恵みカルチャー教室



コーヒーの入れ方を指導する「アトリエモリヒコ」代表の市川尊介さん（左）